

大学生による表現活動 12.5

12月5日（月）に、長崎大学教育学部幼児教育コースの1年生15名が来園し、子どもたちの前で出し物を披露してくれました。

年少児には、「ぐりとぐら」の劇を、年中児には、体を動かす活動を、年長児にはマジックをしてくれました。

それぞれの出し物が発達段階をよく考えた内容になっていました。年少の子どもたちは劇の中に登場したパンケーキを見て、「おいしそう。」「食べたい」などと思ったことを言葉で表現していました。年中の子どもたちは、「さ」の付く言葉をきいて、それに合わせた動きをする活動でした。さんまがお題だと、子どもたちは泳ぐ様子を体で表現し、サンタがお題だと手で帽子を表現します。子どもたちは、言葉を聞いてそれに合った動きをすることができました。年長児のマジックショーは、観客として見るだけではなく、学生からの問いかけがあったり、タネを考えたりと、子どもたちは自分の考えをどんどん発言していました。

子どもたちが楽しんで見るだけでなく、自分の思いや考えを表現する場になるように工夫されていたことで、普段から子どもたちが頑張っている「自分の思いを表現する」を発揮する場にすることもできました。

